

2022年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者B日程 試験問題

刑事法系（刑法，刑事訴訟法）

<解答上の注意>

1. 問題冊子は，表紙を含め3枚である。
2. 問題には，問題1と問題2がある。配点は，問題1が60点，問題2が40点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は，問題1用と問題2用の2枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙1枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し，また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお，整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後，問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は，黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 六法は貸与品なので，折り曲げや書込みをしないこと。なお，書込み・汚損等がある場合は申し出ること。
8. 試験終了後，指示があるまで席を立たないこと。
9. その他は，すべて監督者の指示に従うこと。

【問題1】 次の各設問に答えなさい。解答用紙の冒頭に「問題1」と記入すること（解答順序は問わないが、設問番号を記入すること。また、2問とも解答すること。）。

〔設問〕1（配点40点）

甲は、街路上で暴力団員Aに絡まれ口論となった際、激怒したAが、「この野郎、ぶっ殺してやる。」と怒鳴りながらポケットからナイフを取り出して切りかかっていたので、このままでは殺されてしまうと思い、急いでその場から逃げようと、通行中のBを押し倒した。Bは、これにより、全治10日間の傷害を負った。なお、甲は、Bを押し倒すことを認識しており、また、Bを押し倒して逃げる以外には、甲がAの攻撃から身を守る手段はなかった。

甲の罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く）。

〔設問〕2（配点20点）

乙は、CがDから盗んだパソコン（時価20万円）について、Cからその処分を依頼されたものの、処分先に困り、Dに時価の半額で買い戻させようと考え、Dに10万円で買い取るよう申し向けた。Dは、盗まれたパソコンに愛着があったことから、10万円で買い戻せるなら安いものだと思います、この申し出を了承し、盗まれたパソコンであることを確認のうえ、10万円で買い戻した。

乙に盗品等有償処分あっせん罪が成立するかどうかを論じなさい。

《問題1 以上》

《次頁に続く》

【問題2】 次の【事例】を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。

【事 例】

令和3年7月21日午後10時頃、A県B市C町1丁目2番3号先路上において、Vが包丁でその右大腿部を刺されて殺害される事件が発生し、その後、その犯人として甲が逮捕された。

捜査の結果、検察官Pは、「被告人は、令和3年7月21日午後10時頃、A県B市C町1丁目2番3号先路上において、Vに対し、殺意をもって、包丁でVの右大腿部を1回突き刺し、よって、その頃、同所において、同人を右太腿部刺創による失血により死亡させて殺害したものである。」との殺人の公訴事実により甲を起訴した。

甲は、公判において以下のように主張した。

- ・私がVの右大腿部を包丁で刺したことは争わない。
- ・私はVを殺害する意図がなかったので、私のやったことは傷害致死に留まる。

前記公訴事実に変更されないまま審理が終結し、裁判所は、甲の上記主張が信用できると判断した。

〔設 問〕

裁判所は、「被告人は、令和3年7月21日午後10時頃、A県B市C町1丁目2番3号先路上において、Vに対し、包丁でVの右大腿部を1回突き刺す暴行を加え、よって同人に右大腿部刺創の傷害を負わせ、よって、その頃、同所において、同人を同刺創による失血により死亡させたものである。」との事実を認定して、傷害致死罪により有罪判決を宣告することができるか。

《問題2 以上》

《刑事法系問題 以上》

【出題意図】

刑法

設問1は、緊急避難が問題となる事案を素材として、刑法総論の体系的理解と事案処理能力を問うものである。

設問2は、盗品等関与罪が問題となる事案を素材として、刑法各論の基本的な理解と事案処理能力を問うものである。

刑事訴訟法

本問は、いわゆる縮小認定の場面について、その適否の評価基準及び具体的事案の解決を問うものである。